

3.2 一般消費者を対象とした意識調査

食品への放射線照射に当たって、実際に照射食品を摂取する一般消費者について、照射食品に対する認知の状況、懸念事項等を把握するために、アンケート調査を行った。

3.2.1 調査概要

- 調査方法： インターネット調査
- 調査地域： 日本全国
- 調査対象： 一般市民モニター（インターネット・アンケートシステムの登録モニター）

モニターの抽出に当たっては、サンプリングに偏りが生じないように、国勢調査による地域ブロック別、年齢構成別、性別の人口比率に合わせて、全国のモニター約 30 万人から対象者を抽出した。地域ブロックは、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、年齢層は、20 歳未満、20 代、30 代、40 代、50 代、60 歳以上の年齢層とした。抽出された対象者に電子メールで回答を依頼し、依頼されたモニターが PC 端末を用いてアンケートに回答した。回答数が目標の 3,000 に達した時点で調査を終了した。

- 調査時期： 平成 20 年 2 月 6 日(水)～2 月 7 日(木)*
※目標回答件数に達し次第終了
- 有効票数： 3,015 件

なお、アンケート時期は中国産冷凍ギョウザ事件の報道発表（厚生労働省による第一報は平成 20 年 1 月 30 日）直後の開始となったことから、本アンケート調査においてその影響があることは否定できないことに注意が必要である。

実際、アンケート調査の自由意見において中国産冷凍ギョウザと関連付けた意見が寄せられている。

3.2.2 回答者属性

3.2.2.1 年齢

「50代」が特に多く約4割、その他の年代は概ね1割前後とほぼ同じであり、50代以上の高齢層からの回答で過半数を占める。

これを我が国の年齢構成を示す国勢調査の結果と比べると、大きく異なるのは20歳未満と、50代以降である。この影響に鑑み、以後のアンケート結果については直接結果とともにアンケート回答結果を国勢調査の年齢構成と同様に補正した場合のグラフについても示すものとする。

補正は、図 3-1に示した年齢区分ごとに回答結果を集計した上で、その結果を図 3-1に示した平成17年度の国勢調査による割合で加重平均をとることで行った。

なお、男女比については、極端な差はなかった。

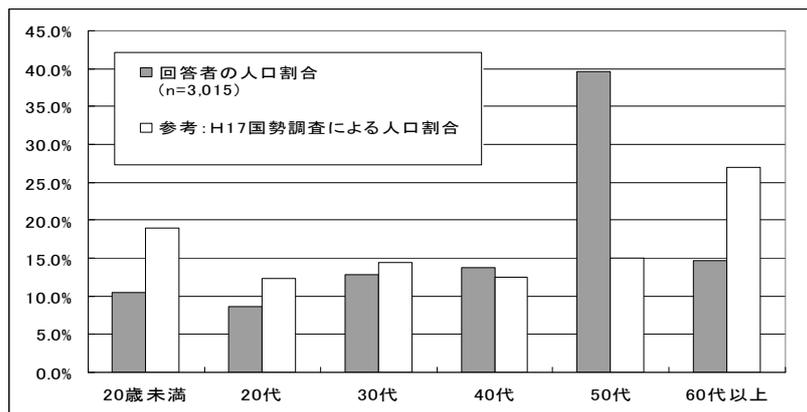


図 3-1 回答者の年齢 (n=3,015)

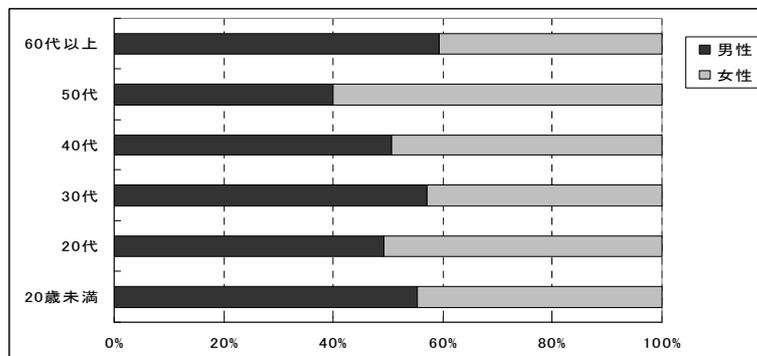


図 3-2 回答者の年代別の性別 (n=3,015)

3.2.2.2 職業

「会社員・公務員等の常勤」が最も多く3割強。次いで「専業主婦・専業主夫」と続く。

年齢構成補正後は会社員等常勤の割合が下がり、自営業・農業の割合が大きく上昇している。

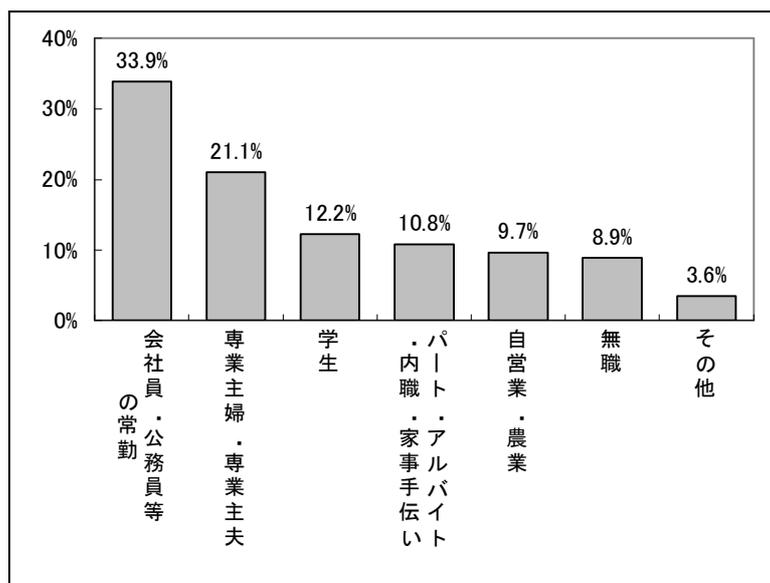


図 3-3 回答者の職業 (n=3,015)

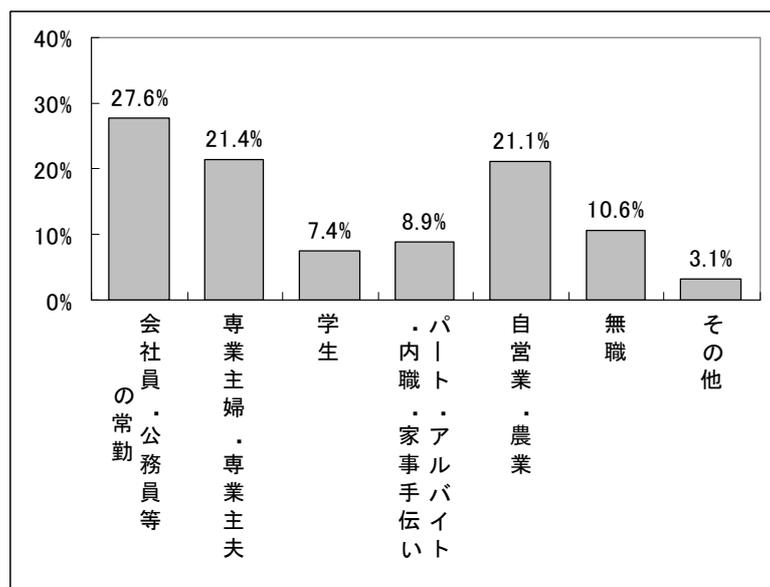


図 3-4 参考：回答者の職業（年齢構成補正後）

3.2.2.3 同居家族人数

「3人」「2人」「1人」の回答者が多くいずれも約2割である。

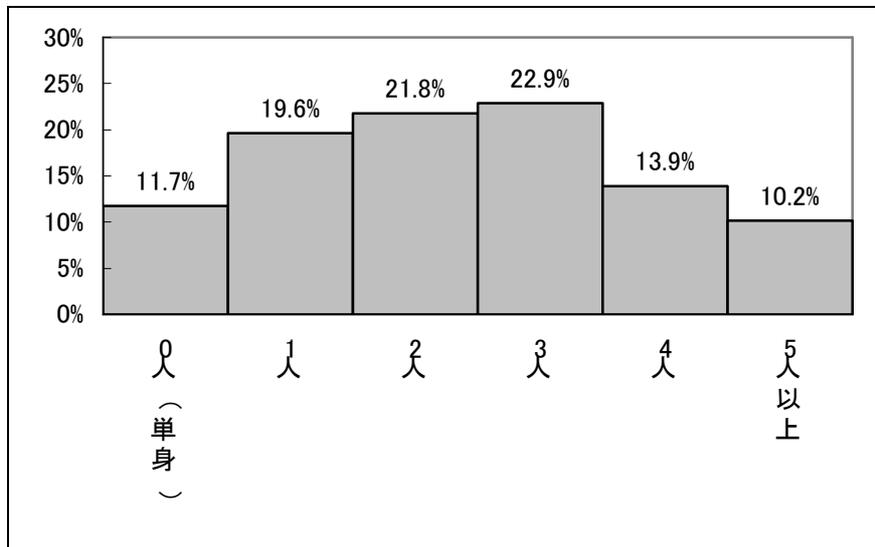


図 3-5 回答者の同居家族人数 (n=3,015)

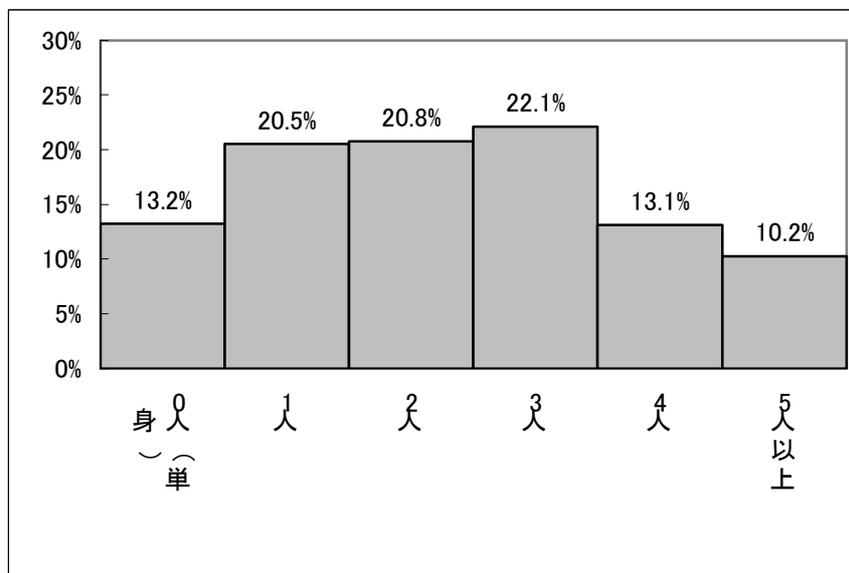


図 3-6 参考：回答者の同居家族人数 (年齢構成補正後)

3.2.2.4 子供の有無 （※複数の場合は、最年少の子供について）

「子供はいない」回答者が最も多く約4割。子どもがいる回答者では「高校生以上の子供がいる」が4割と圧倒的に多く、それ以外の子供の割合は合計して2割に満たない。

年齢構成について補正を行うと、「子供はいない」が半数にのぼり、高校生以上の子供がいるは3割強程度に比率が下がる。その他はそれほど大きな差はない。

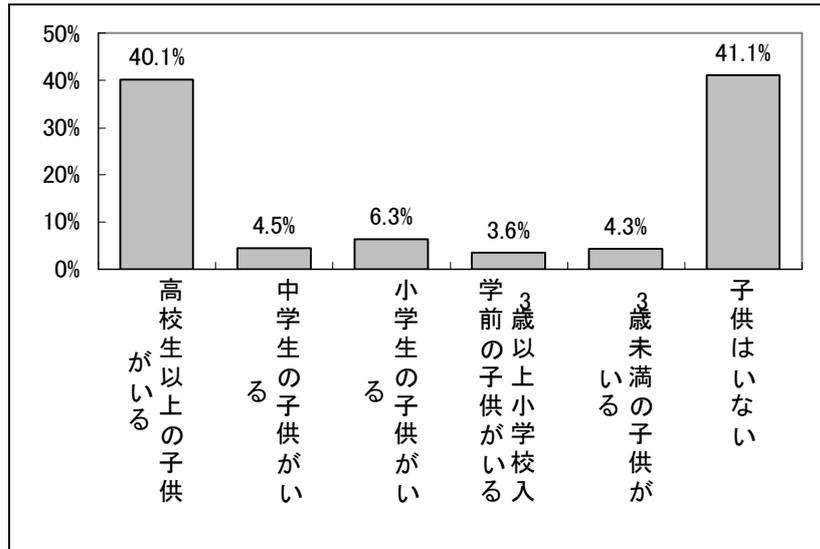


図 3-7 回答者のお子様について (n=3,015)

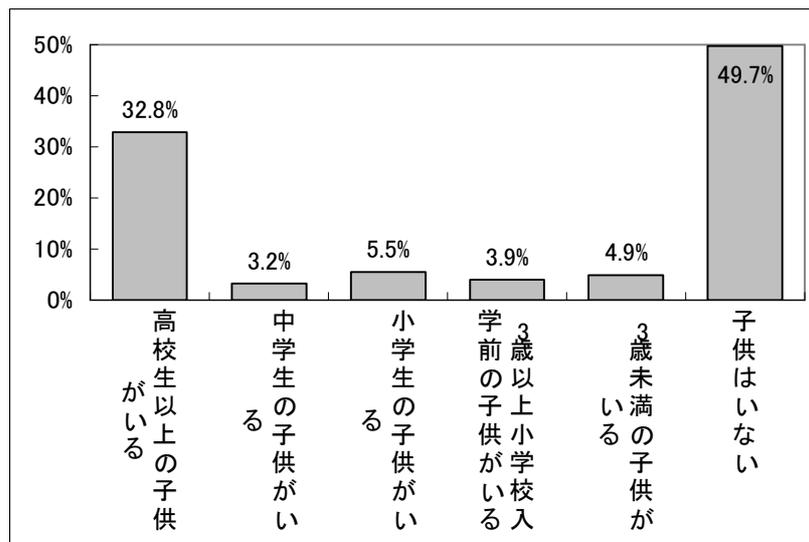


図 3-8 参考：回答者のお子様について（年齢構成補正後）

3.2.3 調査結果

3.2.3.1 設問1 食生活

あなたの食生活についてお聞きします。以下の項目について、それぞれ最も当てはまるものを一つずつお選び下さい。

表 3-2 食生活について (n=3,015)

	そうしている	どちらかという とそうしている	どちらともい えない	どちらかという とそうしていな い	全くそうしてい ない
できるだけ手作りの食事を優先し外食はなるべく避ける	28.2%	40.9%	19.5%	7.8%	3.6%
外食に行く時は、味や雰囲気の良いお店よりもヘルシーなお店を選ぶ	4.5%	16.8%	48.3%	22.9%	7.5%

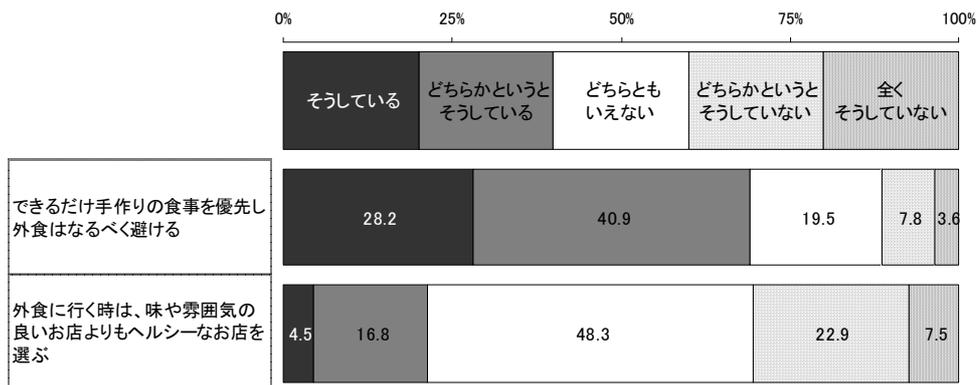


図 3-9 食生活について (n=3,015)

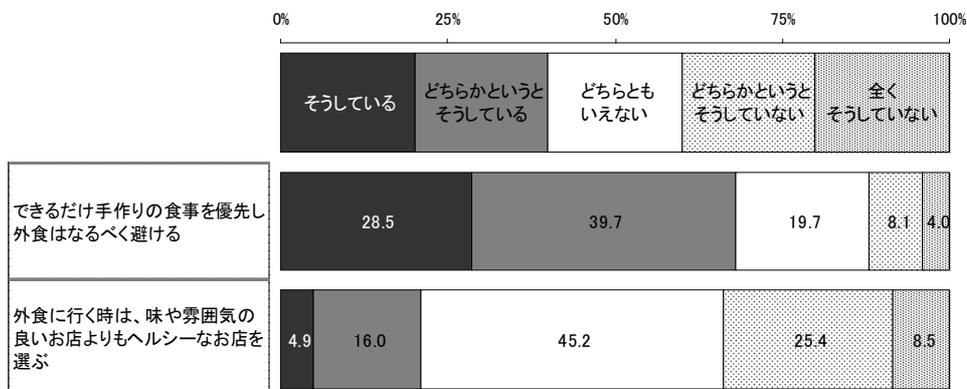


図 3-10 参考：食生活について (年齢構成補正後)

食生活については、「手作りの食事を優先」している人は28.2%であり、「どちらかというそうしている」(40.9%)を含めると約7割に達し、手作り志向が強い結果となっている。

外食に行く場合にヘルシーなお店を選ぶかどうかについては、「どちらともいえない」が特に多く48.3%と約半数を占める。「ヘルシーなお店よりも味や雰囲気を選ぶ」と回答した人は約3割、「ヘルシーなお店を選ぶ」は約2割であり、ヘルシー派がやや少ない傾向があり、総じて外食に当たって、健康志向は高くないようである。

なお、これらの結果は年齢構成による補正を行っても大きな変化はなかった。

3.2.3.2 設問2 購入時の考慮事項

あなたが食品を購入する際、以下の項目についてどの程度考慮しますか。それぞれ最も当てはまるものを一つずつお選び下さい。

表 3-3 食品購入時考慮度 (n=3,015)

	十分考慮する	ある程度考慮する	どちらともいえない	あまり考慮しない	全く考慮しない
賞味期限・消費期限	49.8%	38.0%	7.2%	4.3%	0.8%
味	47.5%	49.3%	2.6%	0.6%	0.1%
価格	45.6%	49.5%	3.4%	1.4%	0.2%
製造元	41.5%	39.1%	11.9%	6.1%	1.4%
残留農薬・食品添加物などの安全性	34.7%	38.8%	17.9%	7.1%	1.4%
栄養価	16.0%	49.5%	23.8%	9.3%	1.5%

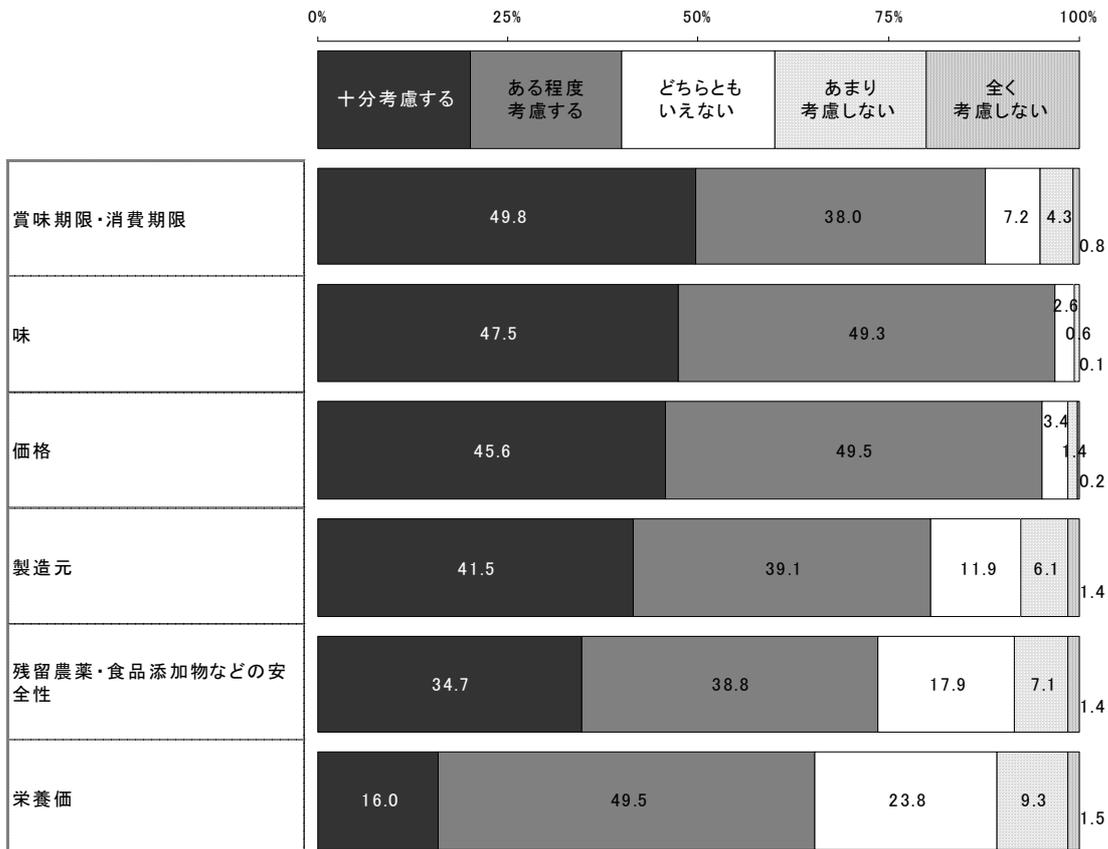


図 3-11 食品購入時考慮度 (n=3,015)

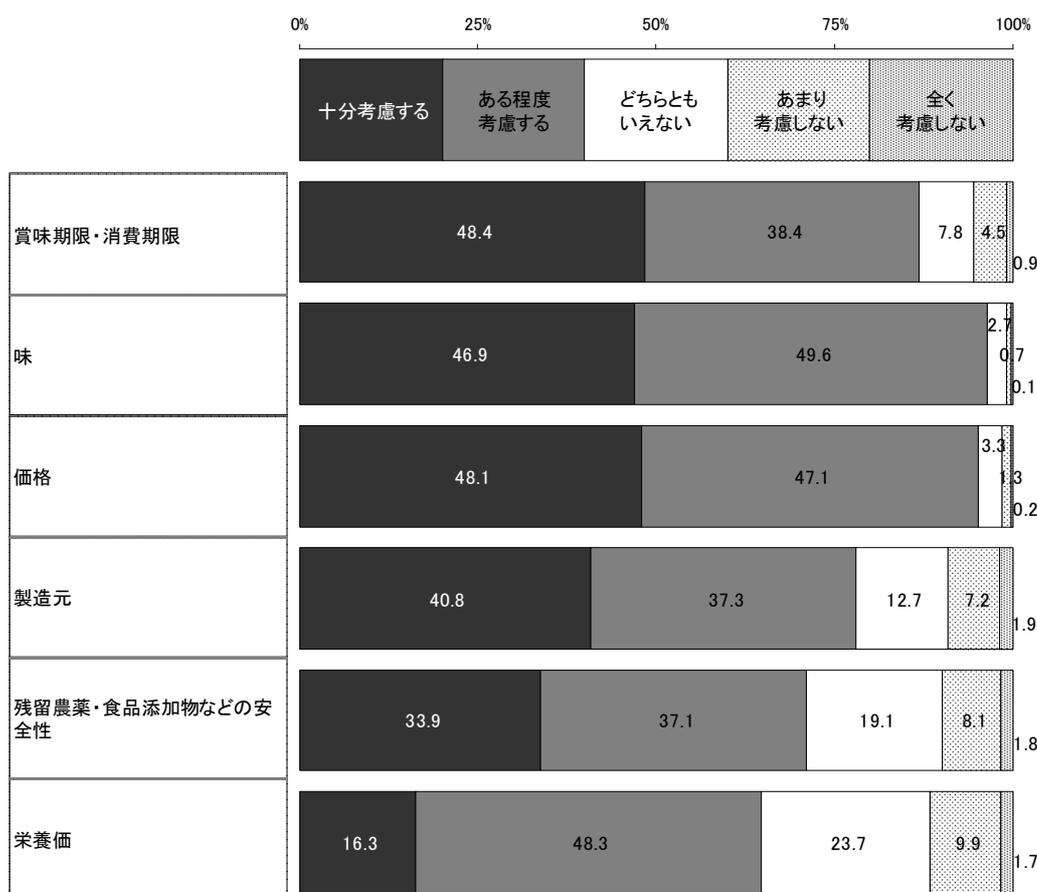


図 3-12 参考：食品購入時考慮度（年齢構成補正後）

食品購入時に考慮する要素としては、「十分考慮する」についてみると、「賞味期限・消費期限」が49.8%と最も多く、僅差で「味」（47.5%）、「価格」（45.5%）と続く。「安全性」に関しては34.7%と低めである。また、「栄養価」について十分考慮するとの回答は16%程度であった。しかしながら、「ある程度考慮する」までも合計すると、いずれも2/3程度以上の回答者が考慮の対象としていることになる。一方、「全く考慮しない」と「あまり考慮しない」という回答は少ないことから、消費者の食品に対する意識はかなり高いものと考えられる。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.3 設問3 情報源

あなたは普段、食の安全に関する判断を、どのような情報源をもとに行っていますか。
当てはまるものをいくつでもお選び下さい。

表 3-4 食の安全に関する情報源 (n=3,015)

回答総数	3,015	100.0%
テレビ(ニュース)	2,794	92.7%
新聞	2,275	75.5%
テレビ(特集番組)	1,863	61.8%
インターネット	1,671	55.4%
家族・友人・知人等との会話	1,180	39.1%
一般雑誌	499	16.6%
国等の行政機関による広報	238	7.9%
専門雑誌・書籍	201	6.7%
市民団体などの講演会・チラシ	153	5.1%
研究者・学会等の専門的な情報源	149	4.9%
DM・電車の車内広告等	106	3.5%
WHO等の国際機関による広報	105	3.5%
その他	46	1.5%

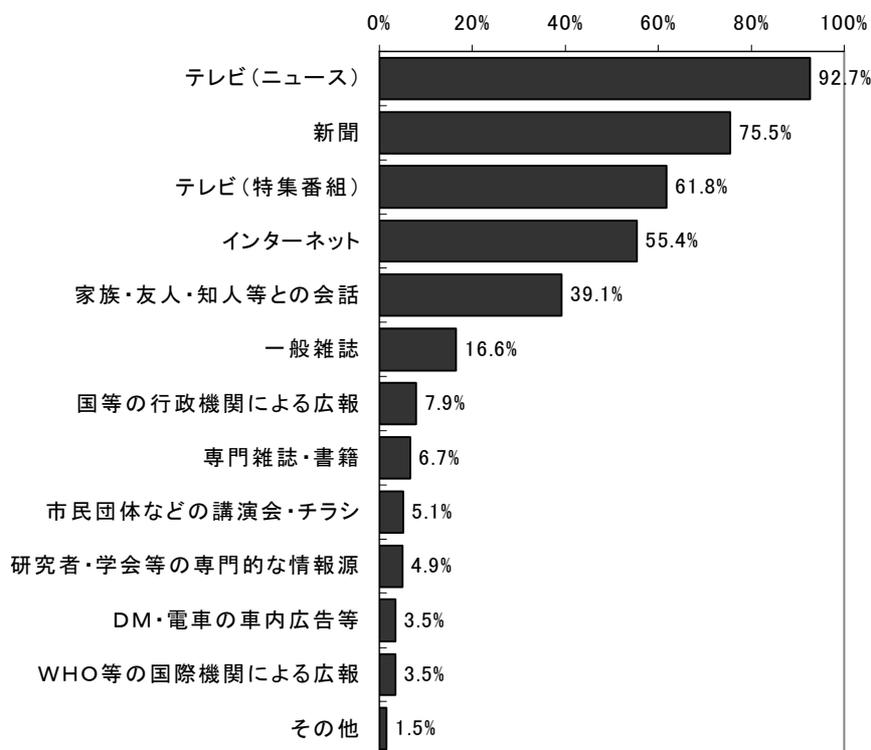


図 3-13 食の安全に関する情報源 (n=3,015)

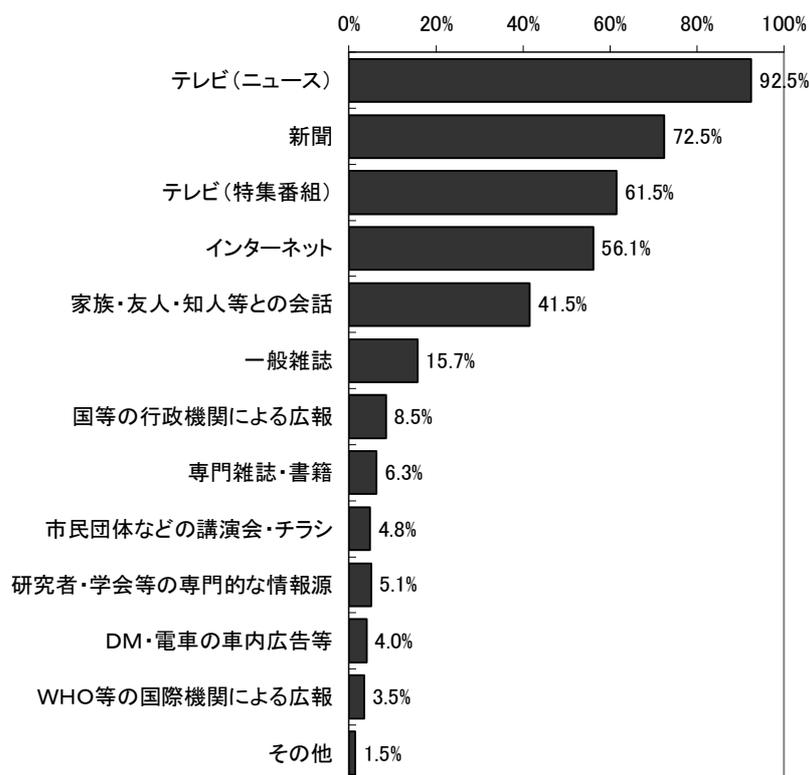


図 3-14 参考：食の安全に関する情報源（年齢構成補正後）

食の安全に関する情報源に関しては、「テレビ（ニュース）」が特に多く 92.7%。次いで「新聞」（75.5%）、「テレビ（特集番組）」（61.8%）といったマスメディアが上位に上がった。一方、昨今のインターネット普及の影響から「インターネット」（55.4%）も過半数に上っており、本調査がインターネット調査であることを差し引いても、インターネットから情報を得ている消費者は多いものと考えられる。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.4 設問4 放射線の他利用

あなたは放射線が、がん治療や医療用器具の滅菌等の医療分野、プラスチックの改質等の工業分野、作物の品種改良等の農業分野などで利用されていることを知っていますか。最も当てはまるものを一つだけお選び下さい。

表 3-5 放射線利用実態の認知度 (n=3,015)

	回答総数	3,015	100.0%
選択肢#1	よく知っている	348	11.5%
選択肢#2	少し知っている	1,263	41.9%
選択肢#3	聞いたことはある	790	26.2%
選択肢#4	知らない	614	20.4%

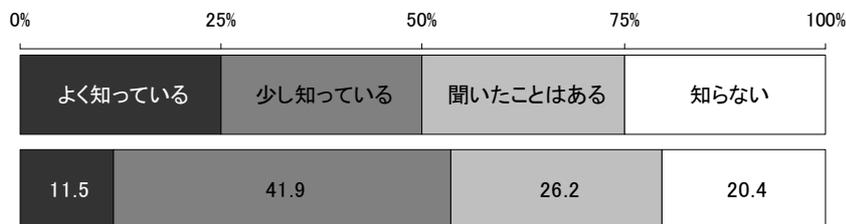


図 3-15 放射線利用実態の認知度 (n=3,015)

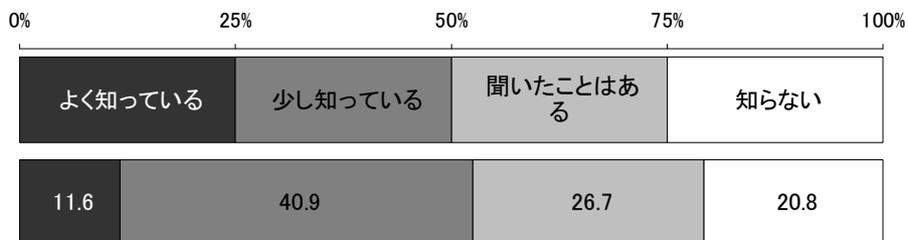


図 3-16 参考：放射線利用実態の認知度 (年齢構成補正後)

放射線が現在、各分野で利用されていることについて「よく知っている」と回答した方は、11.5%。「少し知っている」(41.9%)を合わせると半数を超える。「知らない」は約2割である。

放射線が何らかの利用をされているということ自体の認知は比較的広がっていると考えられる。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.5 設問5 技術認知

食品に放射線を照射することについては、安全性の確保を行った上で、以下の項目の目的等で利用されています。あなたはこれらの目的で、食品へ放射線照射を行う技術があることを知っていますか。それぞれ最も当てはまるもの一つずつお選び下さい。

表 3-6 食品への放射線照射技術の認知度 (n=3,015)

	よく知っている	少し知っている	聞いたことはある	知らない
ばれいしょ等の発芽防止	11.2%	17.0%	22.5%	49.4%
従来技術で困難とされている食品の効率的な殺菌	4.5%	17.2%	23.4%	54.9%
防疫上有害な昆虫の効率的な防除	4.5%	13.6%	22.2%	59.7%
イチゴ等の日持ちの向上	2.9%	8.6%	15.2%	73.3%

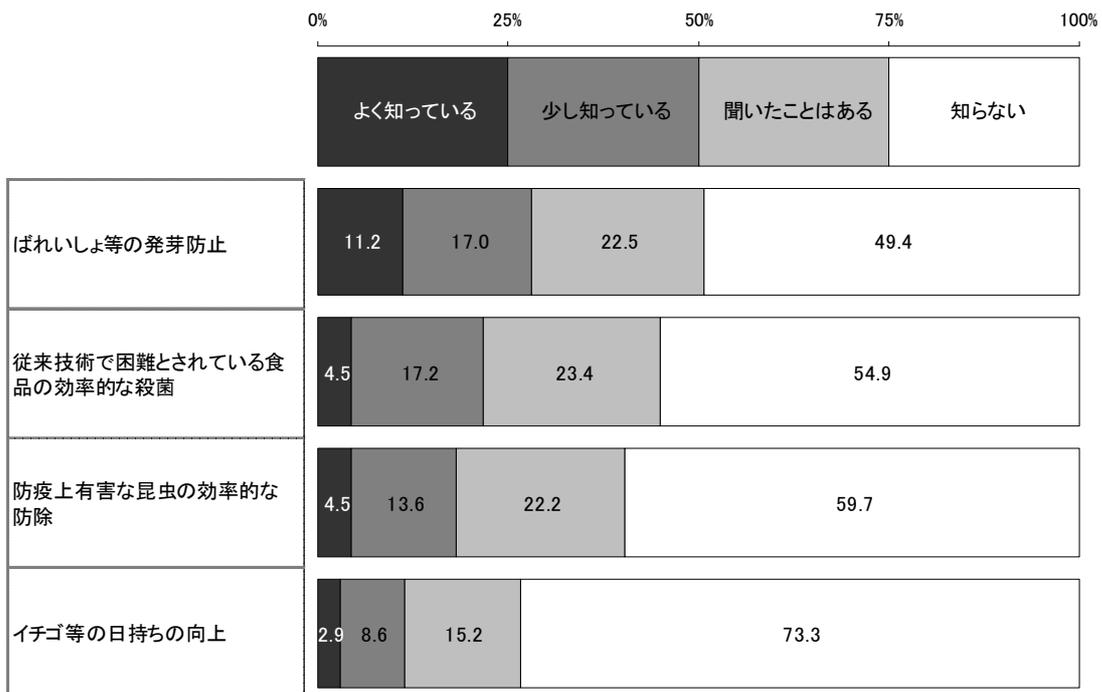


図 3-17 食品への放射線照射技術の認知度 (n=3,015)

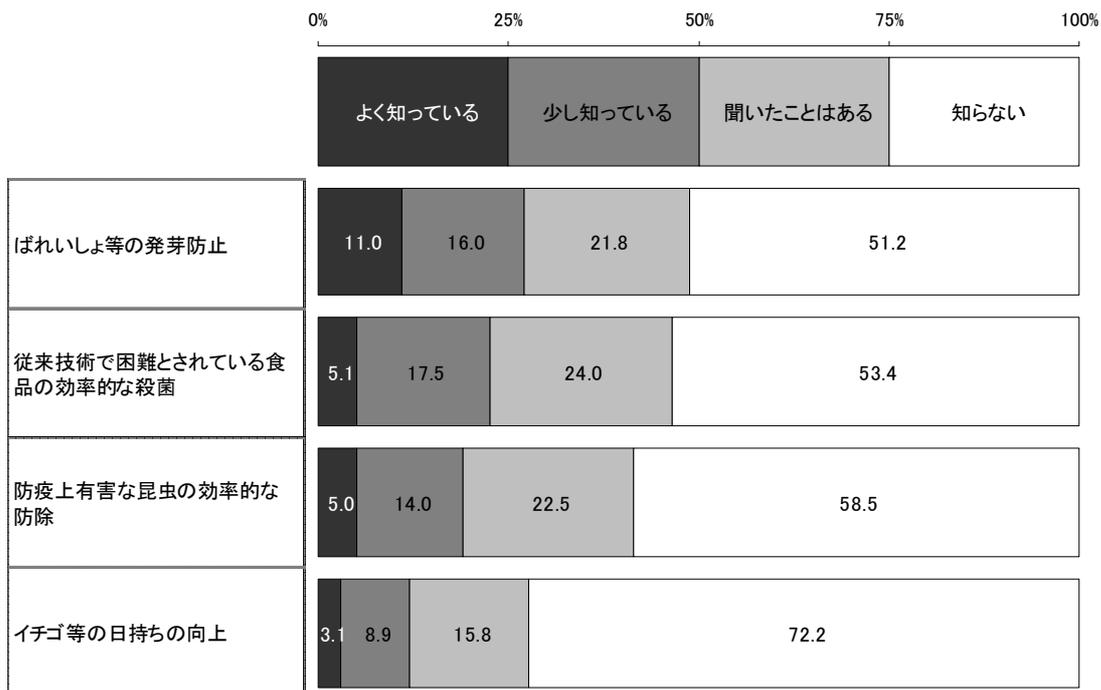


図 3-18 参考：食品への放射線照射技術の認知度（年齢構成補正後）

食品へ放射線を照射する技術については、全ての目的に共通して、「知らない」と回答した人の方が多く概ね半数を上回る。その中で「知っている」（「よく知っている」と「少し知っている」の合計）についてみると、最も認知度が高かったものは、「ばれいしょ等の発芽防止」で28.2%。次いで「従来技術で困難とされている食品の効率的な殺菌」（21.7%）、「防疫上有害な昆虫の効率的な防除」（18.1%）と続く。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.6 設問6 安全確保下における購入賛否

放射線が照射された食品を「照射食品」と呼びますが、あなたは安全性が確保された上であれば、照射食品を購入したいと思いますか。最も当てはまるものを一つだけお選び下さい。

表 3-7 照射食品の購入意向 (n=3,015)

	回答総数	3,015	100.0%
選択肢#1	購入したい	138	4.6%
選択肢#2	どちらかという、購入したい	411	13.6%
選択肢#3	どちらともいえない	1,206	40.0%
選択肢#4	どちらかという、購入したくない	959	31.8%
選択肢#5	購入したくない	301	10.0%

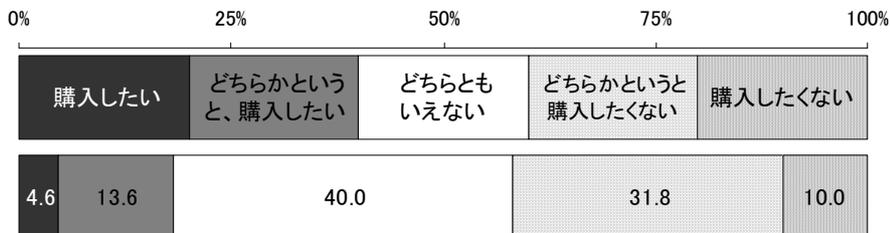


図 3-19 照射食品の購入意向 (n=3,015)

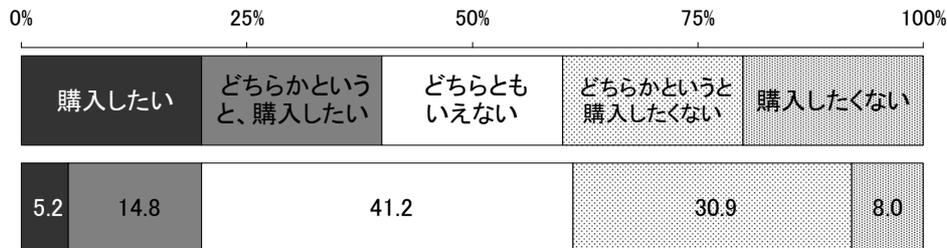


図 3-20 参考：照射食品の購入意向 (年齢構成補正後)

「どちらともいえない」が約4割と最も多く、次いで「どちらかという、購入したくない」が約3割となる。「購入したくない」「どちらかという、購入したくない」の合計は約4割となり、「購入したい」「どちらかという、購入したい」の合計は2割にとどまる。

明確な立場を取る意見は少ないものの、総体としてみると購入には否定的である。なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.7 設問7 我が国への導入賛否

科学的知見に基づく安全性評価を行った上で、有効性が確認された食品への放射線照射技術を我が国で導入することについて、あなたはどのように思いますか。最も当てはまるものを一つだけお選び下さい。

表 3-8 食品への放射線照射技術の導入について (n=3,015)

	回答総数	3,015	100.0%
選択肢#1	導入に賛成	175	5.8%
選択肢#2	どちらかという導入に賛成	605	20.1%
選択肢#3	どちらともいえない	1,196	39.7%
選択肢#4	どちらかという導入に反対	763	25.3%
選択肢#5	導入に反対	276	9.2%

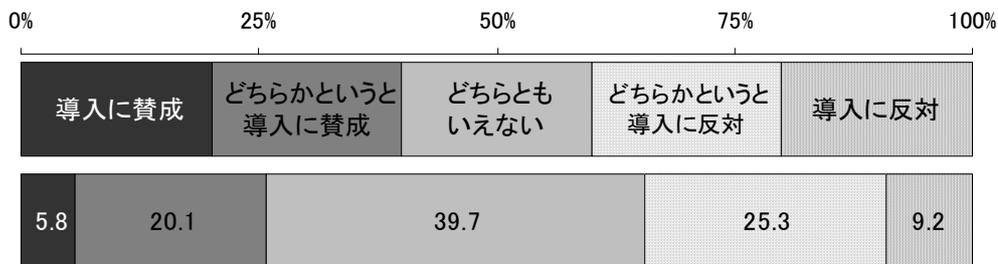


図 3-21 食品への放射線照射技術の導入について (n=3,015)

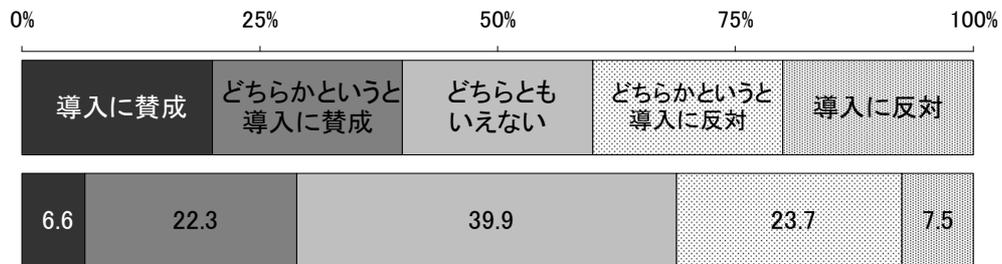


図 3-22 参考：食品への放射線照射技術の導入について (年齢構成補正後)

「どちらともいえない」が約4割と最も多く、「反対」「どちらかというと反対」の合計は約35%である。「賛成」「どちらかといえは賛成」の合計は約25%程度にとどまる。

なお、年齢構成補正後は「どちらともいえない」の割合は変わらないものの、賛成・反対の差はほぼない結果となった。

3.2.3.8 設問8 導入条件

(問7で「導入に賛成」または「どちらかという導入に賛成」を選択した方にお尋ねします。) あなたの考え方に当てはまるものをいくつでもお選び下さい。

表 3-9 導入の賛成条件について (n=780)

回答総数	780	100.0%
安全性確保に関する管理体制が構築され、適切に運用されていれば賛成	562	72.1%
既存の技術(例:加熱殺菌等)より有用性が認められるならば賛成	555	71.2%
購入時に照射食品か否か消費者が判断できれば賛成	387	49.6%
諸外国で認められている食品であれば賛成	91	11.7%
無条件に賛成	24	3.1%
その他	12	1.5%

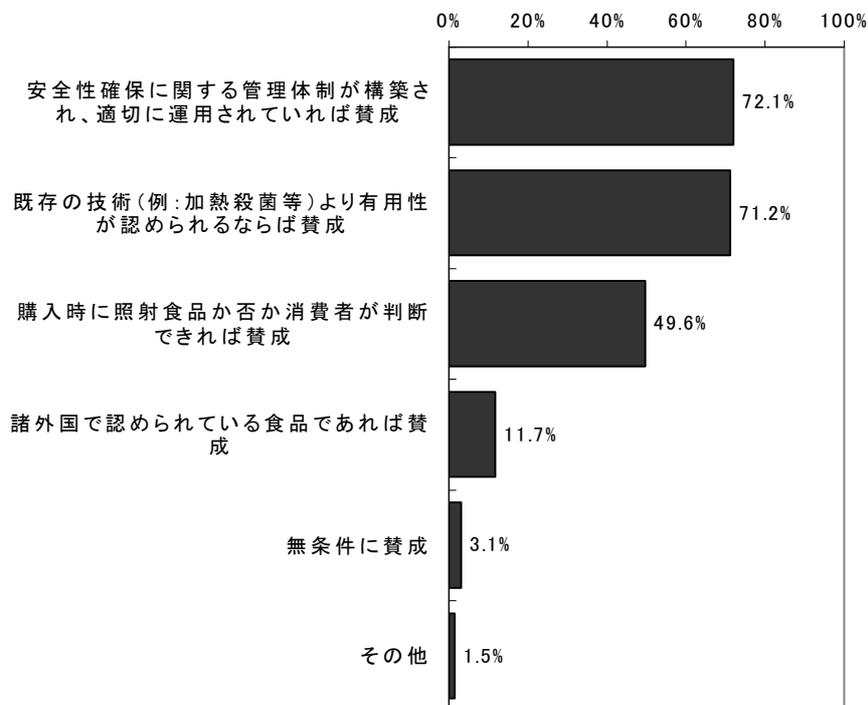


図 3-23 導入の賛成条件について (n=780)

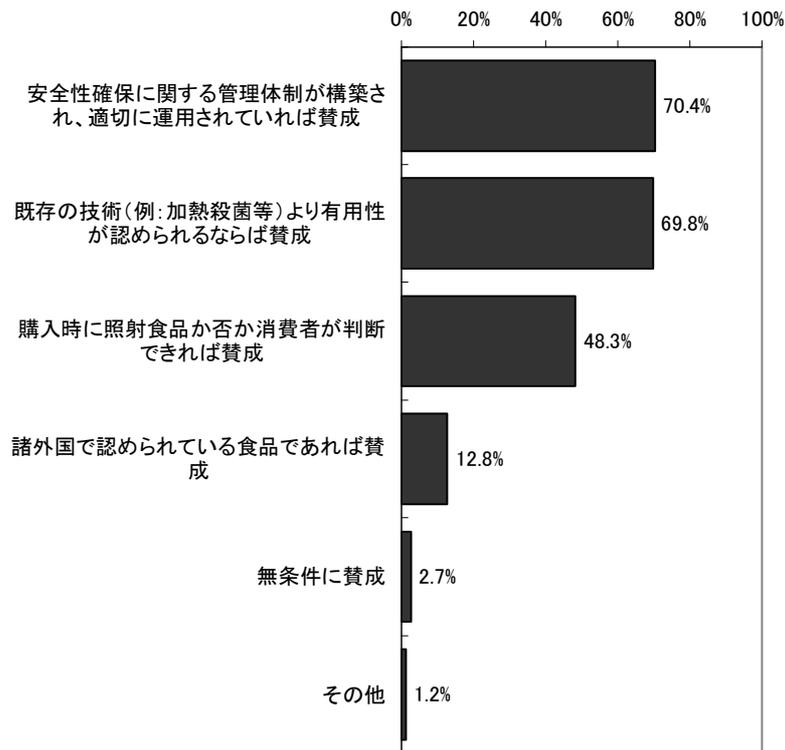


図 3-24 参考：導入の賛成条件について（年齢構成補正後）

食品への放射線照射技術の国内導入に賛成した回答者に、その導入条件について質問したところ「安全性確保に関する管理体制が構築され、適切に運用されていれば賛成」「既存の技術（例：加熱殺菌等）より有用性が認められるならば賛成」の2項目が突出して高く約7割である。次いで「購入時に照射食品か否か消費者が判断できれば賛成」（49.6%）と続き、「無条件に賛成する」は3.1%と僅かである。

この結果からは、導入賛成者は、主に「安全性の確保」「有用性の証明」が導入条件と考えており、「照射食品の区別」については、やや優先度が下がる結果となった。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.9 設問9 懸念事項

照射食品の安全性に関して、以下の項目のような意見もあります。これらの意見についてどのように思いますか。それぞれ最も当てはまるものを一つずつお選び下さい。

表 3-10 照射食品の安全性に関する意見 (n=3,015)

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
照射食品と非照射食品の区別ができなくなってしまう恐れがある	33.9%	42.1%	19.0%	3.8%	1.2%
照射食品中の成分が変化し、未知の健康影響をもたらす恐れがある	24.0%	45.0%	25.9%	4.1%	1.0%
照射食品を扱う従業員が被曝する恐れがある	23.0%	44.4%	24.7%	6.0%	1.9%
食品への放射線照射技術はまだ未熟である	17.9%	43.7%	33.3%	4.2%	1.0%
照射食品は危険である	12.3%	35.9%	40.5%	8.4%	3.0%

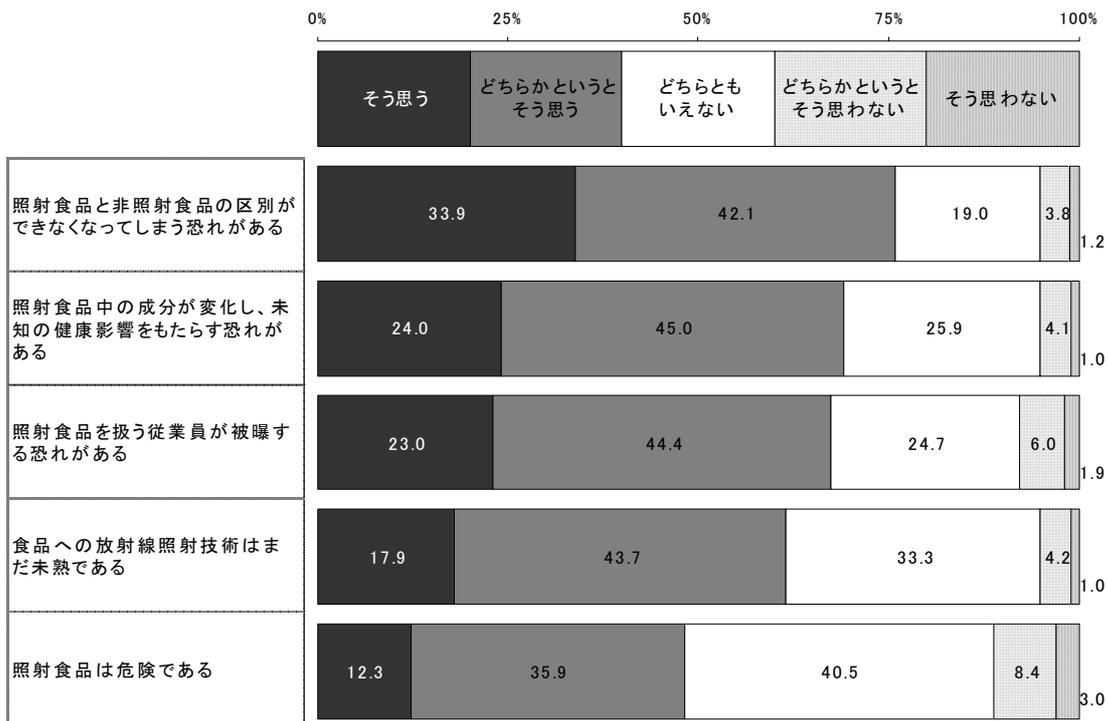


図 3-25 照射食品の安全性に関する意見 (n=3,015)

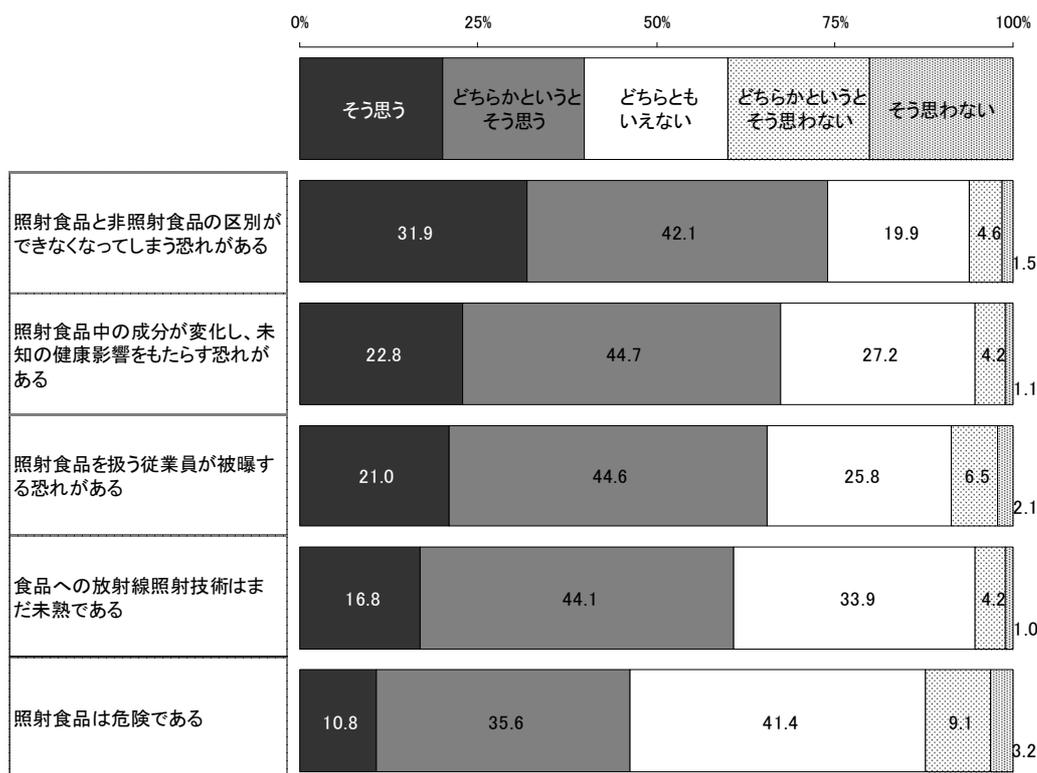


図 3-26 参考：照射食品の安全性に関する意見（年齢構成補正後）

照射食品の安全性に関して「そう思う」、「どちらかというそう思う」の割合についてみると、「照射食品と非照射食品の区別ができなくなってしまう恐れがある」が最も多く 76.0%。次いで「照射食品中の成分が変化し、未知の健康影響をもたらす恐れがある」（69.0%）、「照射食品を扱う従業員が被曝する恐れがある」（67.4%）と続く。「照射食品は危険である」との回答は 48.2%となっている。

単純に「照射食品は危険である」と考える消費者は少ないが、懸念を指摘されるとそれを否定するだけの知識はないと考えられる。なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.10 設問 10 国による関与

有効性が確認された食品への放射線照射技術を我が国で導入する際、安全性を確保するために国等が行う管理の内容として、あなたは以下の項目についてどのように思いますか。それぞれ最も当てはまるものを一つずつお選び下さい。

表 3-11 照射技術導入に関する国等の管理内容について (n=3,015)

	必要だと思う	どちらかという と必要だと思う	どちらともい えない	どちらかという と必要だと思 わない	不必要である
照射施設の適切な管理	81.4%	11.3%	7.0%	0.1%	0.1%
違法な照射を行った食品等事業者に対する処罰	79.6%	11.3%	8.6%	0.4%	0.1%
照射食品の非照射食品への混入や違法照射などの事故が生じた際の消費者への確実・迅速な情報提供	79.1%	12.3%	8.2%	0.1%	0.2%
照射食品と非照射食品を区別・判断するための表示	75.2%	15.7%	8.3%	0.6%	0.2%
適正に照射された食品か否かの確認	69.6%	20.7%	8.6%	0.6%	0.5%
照射食品の許認可制度の導入	59.5%	19.4%	15.2%	3.9%	2.0%

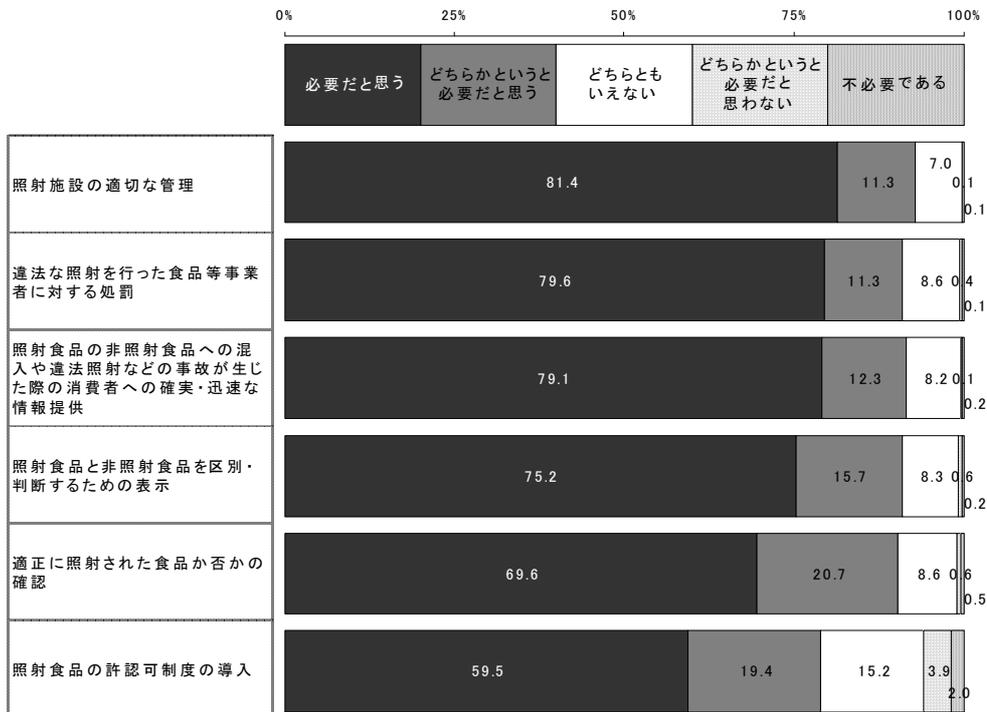


図 3-27 照射技術導入に関する国等の管理内容について (n=3,015)

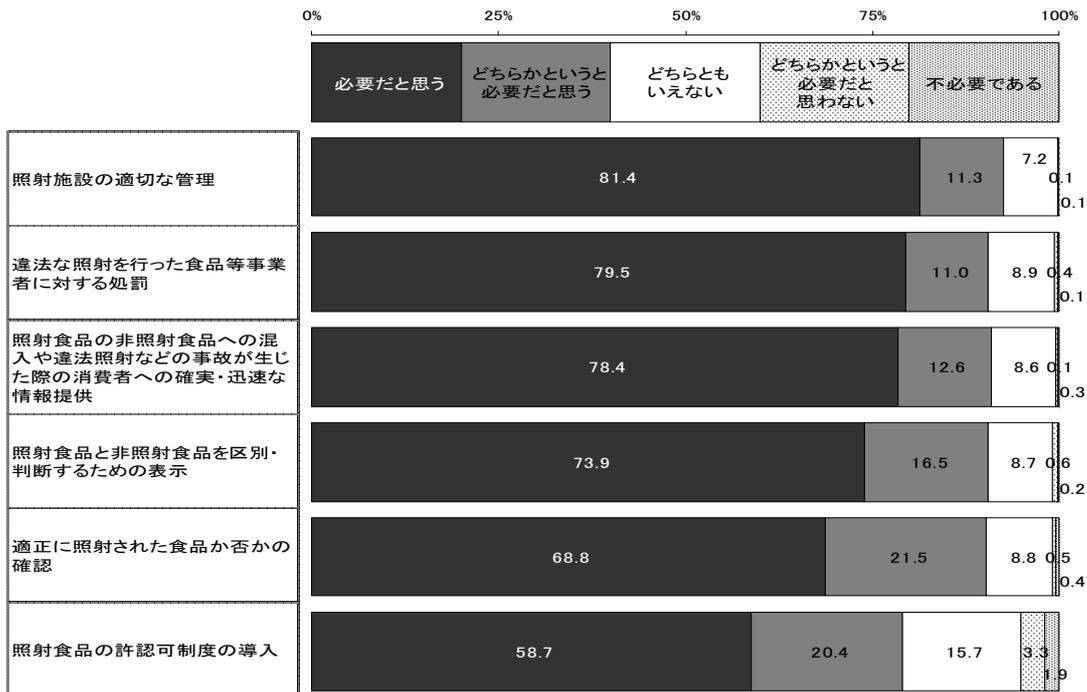


図 3-28 参考：照射技術導入に関する国等の管理内容について（年齢構成補正後）

照射技術導入に関する国等の管理内容について「必要だと思う」の割合についてみると、全ての管理内容において約 6 割以上が必要を感じており、その中でも「照射施設の適切な管理」（81.4%）を望む声が多く、次いで「違法な照射を行った食品等事業者に対する処罰」（79.6%）、「照射食品の非照射食品への混入や違法照射などの事故が生じた際の消費者への確実・迅速な情報提供」（79.1%）と続く。

「どちらかという不必要」「不必要」との回答は大部分の選択肢で 1%にも満たないという状況である。

なお、年齢構成補正後でも結果に大きな変化はなかった。

3.2.3.11 設問 11 不足情報・自由意見

食品への放射線照射技術や照射食品に関して不足していると思われる情報、入手したいとお考えの情報があれば、ご記入下さい。また、食品への放射線照射技術や照射食品に関して、その他ご意見があれば、自由に記述して下さい。

以下に主たる意見を示す。同趣旨の意見が複数寄せられた場合は、その内容を整理した結果を示す。

- 「不足していると思われる情報・入手したいと考える情報」に関する主たる意見
 - ・ 照射食品の科学的安全性に関する情報
 - ・ 照射食品と人体影響に関する情報（特に長期摂取の安全性）
 - ・ 照射食品の摂取に伴う被害等の事例
 - ・ 照射食品に関する海外の状況
 - ・ 照射食品が現在、我が国で流通しているのかどうか
 - ・ いつ導入するのか
 - ・ どのような食品に照射するのか
 - ・ どの程度の量の照射食品が流通するのか
 - ・ どのようなメリット・デメリットがあるのか
 - ・ 必要性があるのか
 - ・ 管理や責任体制をどのようにするのか
 - ・ 照射食品のどこに表示等がされるのか
 - ・ どこで情報を入手できるのか
 - ・ レントゲンと比較してどうなのかといった分かりやすい情報提供を望む

- その他意見
 - ・ 照射食品というもの自体を初めて知った
 - ・ よくはわからないが、放射線と聞くと怖い
 - ・ 食品は自然なままで食するのが良い
 - ・ 表示義務を課すべき
 - ・ 情報不足のため、周知・広報を進めるべき（政府・企業・マスコミ一体の広報）
 - ・ 情報がもっと欲しい
 - ・ もっと知りたい
 - ・ 現状では行政・企業の情報は信用できない

- 導入する場合は安全が大前提である
- 偽装問題等あるなかで厳重な管理が求められる
- TV等の公開でもっと議論して欲しい
- 照射は国内で行うべきである
- 照射食品かなんて考えてもいなかったが、ギョウザの事件で日本のギョウザ製造メーカーが放射線で異物をチェックしているのを知った

3.2.4 参考分析

以下では参考分析として、いくつかの設問におけるクロス集計結果を示す。

3.2.4.1 設問6×設問7 「購入意思」別の「導入意思」

表 3-12 問6購入意思 × 問7導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問6 購入 意思	購入したい	65.2%	29.7%	4.3%	0.7%	0.0%
	どちらかという と、購 入したい	14.6%	66.9%	15.6%	2.7%	0.2%
	どちらとも いえない	1.9%	21.3%	65.3%	11.4%	0.2%
	どちらか という と購 入し たく ない	0.2%	3.3%	32.8%	55.6%	8.0%
	購入し たく ない	0.0%	0.0%	8.0%	26.9%	65.1%

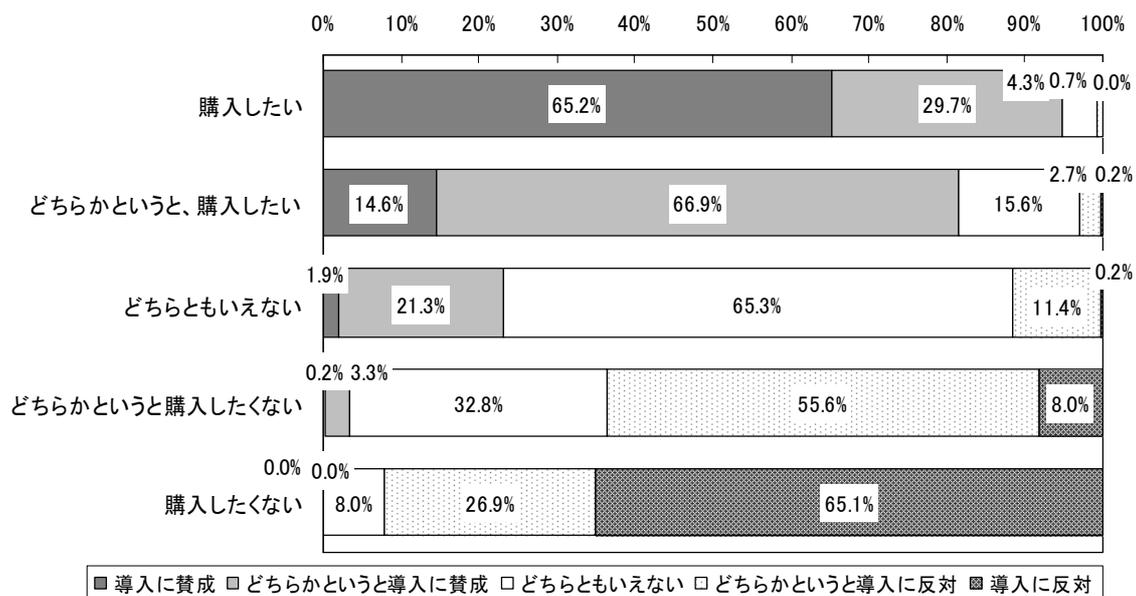


図 3-29 問6購入意思 × 問7導入意思 のクロス集計

購入したいと回答した回答者は導入に賛成する傾向が見られ、一方購入したくないと回答した回答者は導入に反対する傾向が見られる。

購入に関して「どちらともいえない」と回答した回答者は、導入に関しても「どちらともいえない」との傾向が強い。

3.2.4.2 設問4×設問7 「放射線利用の認知」別の「導入意思」

表 3-13 問4 放射線利用の認知 × 問7 導入意思 のクロス集計

問4 放射線 利用の 認知		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問4 放射線 利用の 認知	よく知っている	18.1%	30.7%	23.9%	17.0%	10.3%
	少し知っている	5.2%	22.1%	39.0%	24.9%	8.7%
	聞いたことはある	2.5%	17.0%	44.8%	27.5%	8.2%
	知らない	4.2%	13.8%	43.3%	28.0%	10.6%

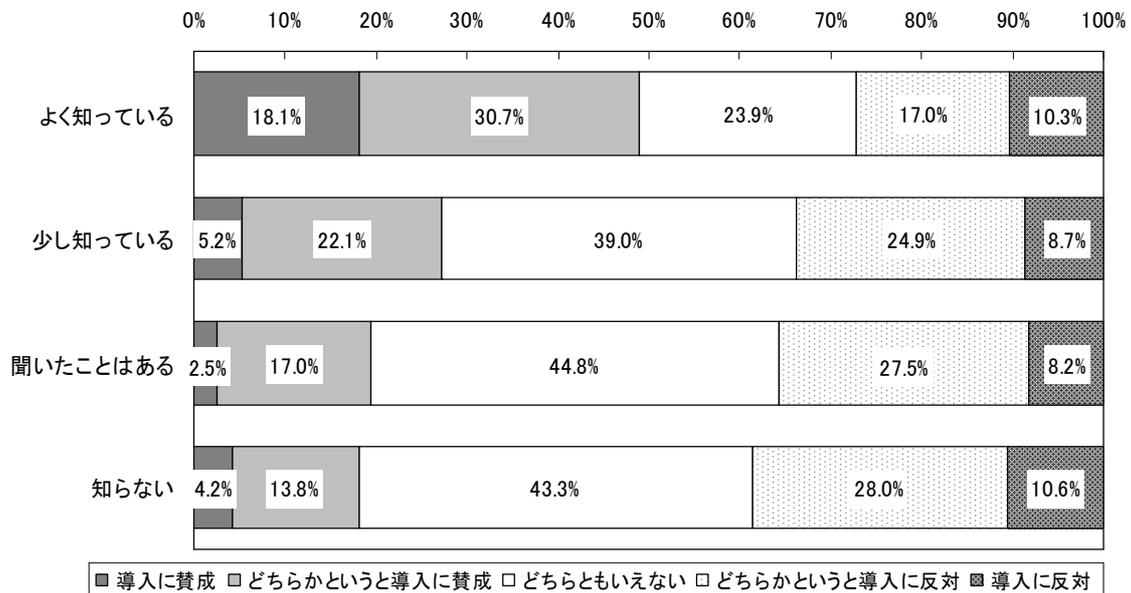


図 3-30 問4 放射線利用の認知 × 問7 導入意思 のクロス集計

放射線利用状況について「よく知っている」と回答した回答者に関しては、導入に「賛成」の傾向が強い。それ以外については、「どちらともいえない」が最も多いものの全体的な傾向としては導入に否定的である。この傾向については、「よく知っている」以外の回答者では大きな違いがなかった。

3.2.4.3 設問1×設問6 「食生活」別の「購入意思」

表 3-14 問1①手作り志向か × 問6購入意思 のクロス集計

		問6 購入意思				
		購入したい	どちらかというと、購入したい	どちらともいえない	どちらかというと購入したくない	購入したくない
問1 □手作り志向か	そうしている	4.6%	12.7%	35.1%	32.9%	14.7%
	どちらかというそうしている	3.6%	14.8%	39.9%	33.1%	8.6%
	どちらともいえない	4.9%	12.9%	45.8%	28.7%	7.6%
	どちらかというそうしていない	4.7%	14.5%	39.6%	34.9%	6.4%
	全くそうしていない	13.9%	9.3%	49.1%	18.5%	9.3%

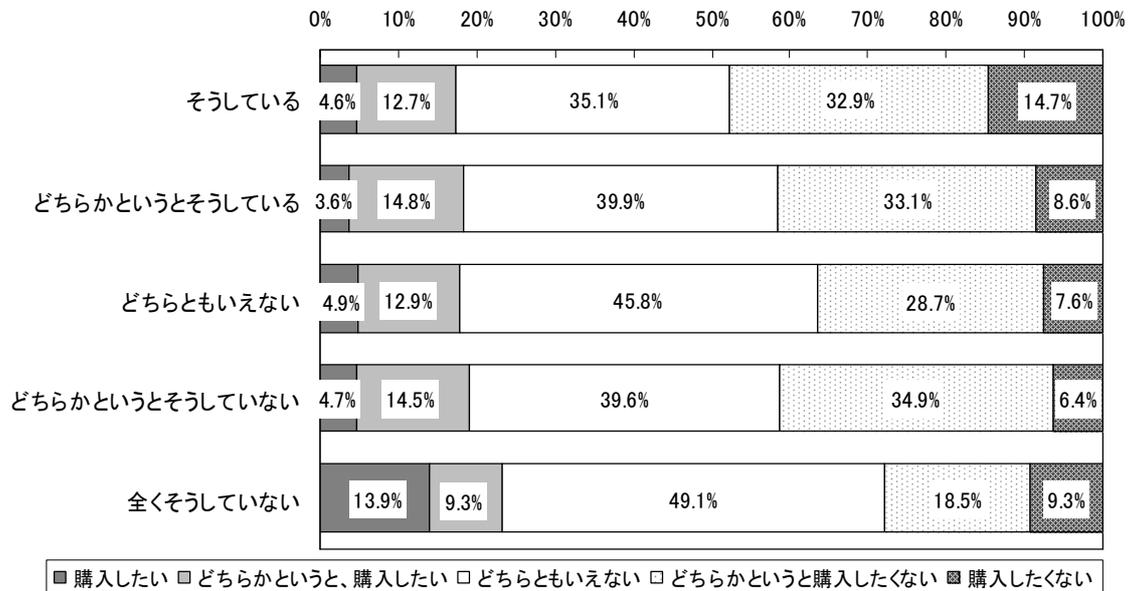


図 3-31 問1①手作り志向か × 問6購入意思 のクロス集計

手作り志向と購入意思との相関については、手作り志向の回答による大きな変化はそれほどなかった。ただし、「できるだけ手作りの食事を優先し外食はなるべく避ける」という選択肢に「全くそうしていない」と回答した回答者については、「購入したい」という割合が増加し、「どちらかという購入したくない」という回答が減少した。

表 3-15 問 1②外食でヘルシー志向か × 問 6 購入意思 のクロス集計

		問 6 購入意思				
		購入したい	どちらかという と購入したい	どちらともいえ ない	どちらかという と購入したくない	購入したくない
問 1 □ 外食でヘルシー志向か	そうしている	8.1%	13.2%	29.4%	30.1%	19.1%
	どちらかという とそうしている	3.4%	15.0%	35.8%	33.2%	12.6%
	どちらともいえない	3.6%	12.4%	42.1%	32.3%	9.6%
	どちらかという とそうしていない	5.2%	15.6%	40.1%	32.6%	6.5%
	全くそうしていない	9.8%	12.9%	41.8%	24.0%	11.6%

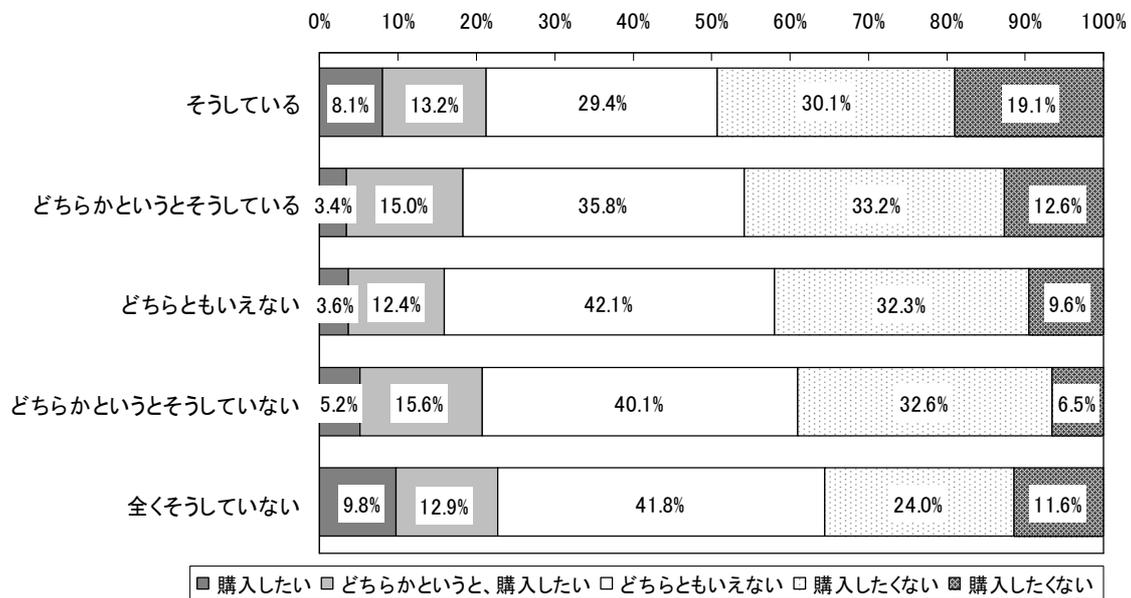


図 3-22 問 1②外食でヘルシー志向か × 問 6 購入意思 のクロス集計

外食におけるヘルシー志向と購入意思については回答による大きな差異は見られなかった。

3.2.4.4 設問9×設問7 「照射食品への懸念事項」別の「導入意思」

表 3-16 問9 照射食品は危険 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという と導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという と導入に反対	導入に反対
問9 照射食品は危険	そう思う	1.1%	2.4%	9.7%	34.3%	52.4%
	どちらかという とそう思う	1.1%	8.3%	40.3%	44.1%	6.2%
	どちらともいえ ない	4.5%	26.5%	55.9%	12.0%	1.1%
	どちらかという とそう思わ ない	17.9%	61.5%	15.5%	4.8%	0.4%
	そう思わ ない	66.3%	30.3%	2.2%	0.0%	1.1%

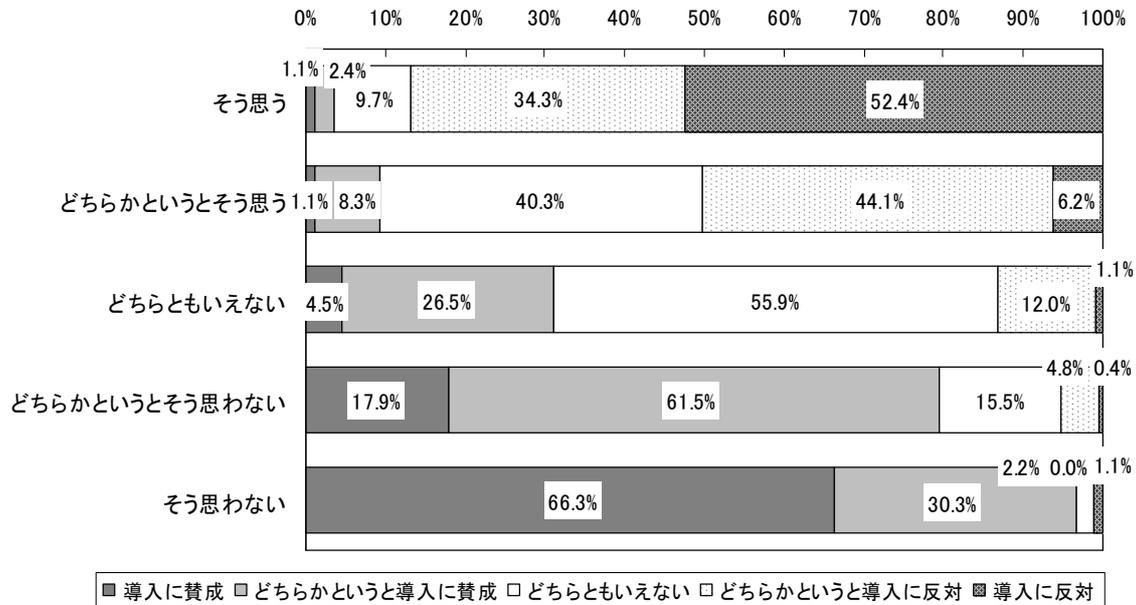


図 3-33 問9 照射食品は危険 × 問7 導入意思 のクロス集計

「照射食品は危険」という主張に対して「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した者は導入に否定的傾向を示し、「どちらかというとそう思わない」「そう思わない」と回答した者は導入に肯定的傾向を示している。

「照射食品は危険」という主張に対して「どちらともいえない」と回答した回答者においては導入に関して「どちらともいえない」が割合として最も多かったが、全体としてはやや肯定的傾向であった。

表 3-17 問9 照射技術はまだ未熟 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともい えない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問9 照射 技術 は ま だ 未 熟	そう思う	0.7%	5.0%	17.2%	40.6%	36.5%
	どちらかという と そう 思う	3.7%	16.6%	44.9%	31.4%	3.5%
	どちらともい え ない	6.5%	29.3%	49.0%	12.2%	3.1%
	どちらかという と そう 思 わ ない	29.4%	47.6%	15.9%	6.3%	0.8%
	そう思 わ ない	69.0%	20.7%	3.4%	3.4%	3.4%

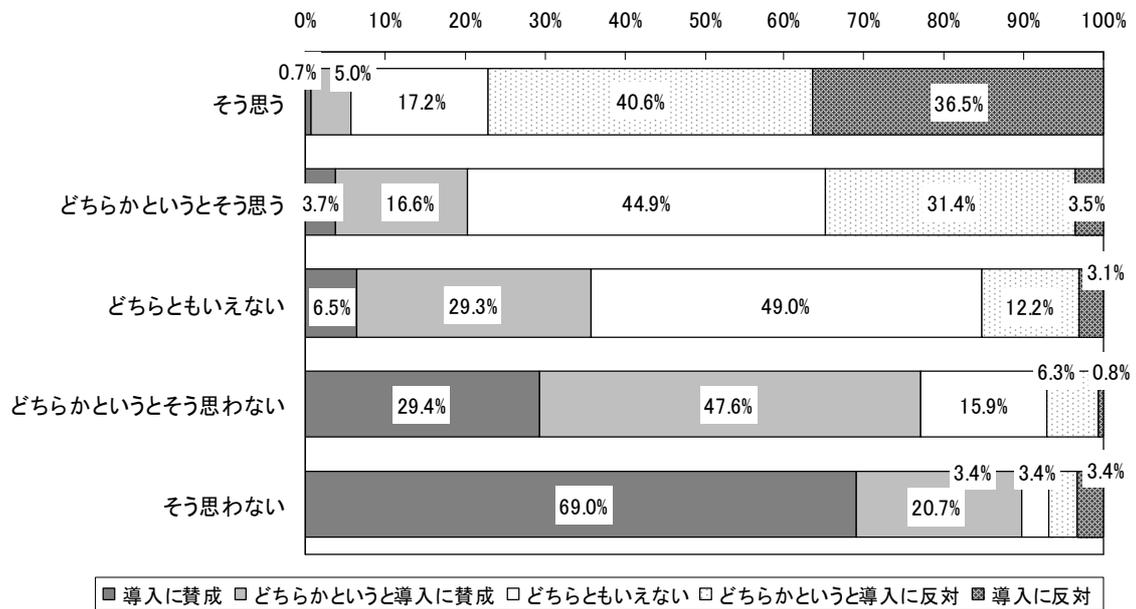


図 3-34 問9 照射技術はまだ未熟 × 問7 導入意思 のクロス集計

「照射技術はまだ未熟」という主張に対しても、「照射食品は危険」という主張と同様の傾向を示している。

表 3-18 問9 未知の健康影響をもたらす × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともい えない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問9 未知の健康 影響を もたらす	そう思う	1.1%	4.4%	21.0%	41.2%	32.3%
	どちらかという とそう 思う	3.2%	17.4%	48.1%	28.7%	2.7%
	どちらともい えない	8.7%	35.3%	47.2%	8.1%	0.8%
	どちらかという とそう 思わない	27.4%	46.0%	17.7%	8.9%	0.0%
	そう思わ ない	75.9%	17.2%	3.4%	3.4%	0.0%

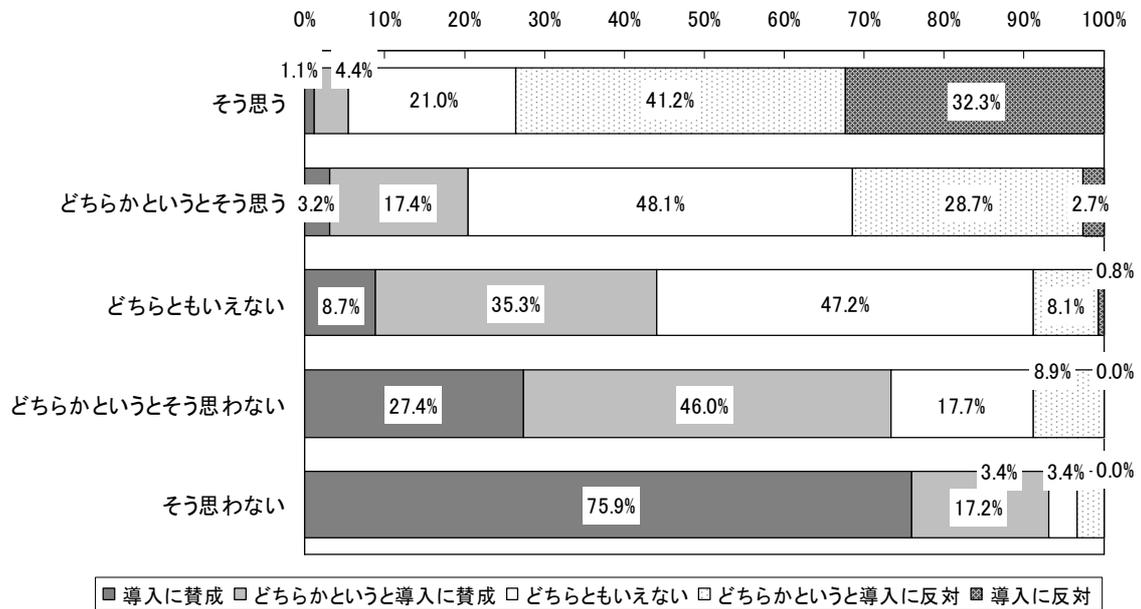


図 3-35 問9 未知の健康影響をもたらす × 問7 導入意思 のクロス集計

傾向は「照射技術はまだ未熟」という主張に対する相関とほぼ変わらない。

表 3-19 問9 従業員が被曝する × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問9 従業員が被曝する	そう思う	3.3%	7.5%	23.9%	38.5%	26.8%
	どちらかという と思う	3.5%	20.0%	44.9%	27.0%	4.6%
	どちらともいえない	7.4%	25.8%	49.8%	14.5%	2.6%
	どちらかという と思わない	15.0%	38.3%	29.4%	13.9%	3.3%
	そう思わない	40.4%	42.1%	8.8%	1.8%	7.0%

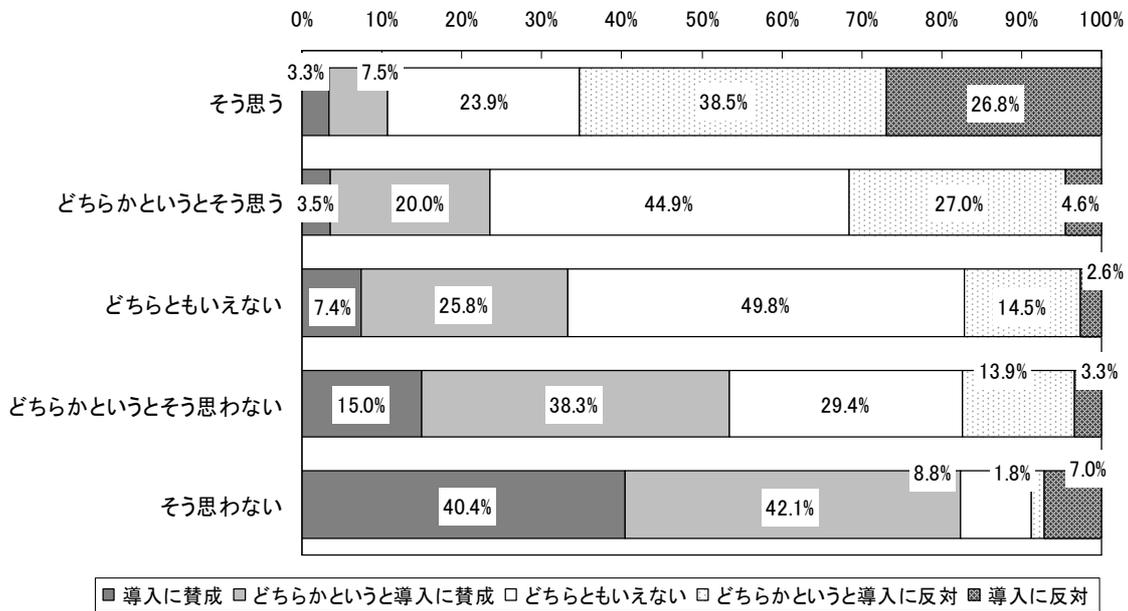


図 3-36 問9 従業員が被曝する × 問7 導入意思 のクロス集計

傾向は「照射技術はまだ未熟」という主張に対する相関と大きく異なるものの、「導入に賛成」と明確な立場を取る割合が減少している点でやや異なっている。

また、「そうは思わない」と回答した者でも「導入に反対」と回答した割合が「そう思う」に次いで多いなどの点でもやや傾向を異にしている。

表 3-20 問9 区別ができなくなってしまう × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという 導入に賛成	どちらともい えない	どちらかという 導入に反対	導入に反対
問9 区別が できな くなっ てし まう	そう思う	2.9%	10.4%	26.2%	37.1%	23.3%
	どちらかという とそう 思う	4.3%	22.1%	45.5%	25.8%	2.3%
	どちらともい えない	8.9%	27.1%	54.5%	8.6%	1.0%
	どちらかという とそう 思わない	20.0%	47.0%	28.7%	4.3%	0.0%
	そう思わ ない	43.2%	27.0%	13.5%	8.1%	8.1%

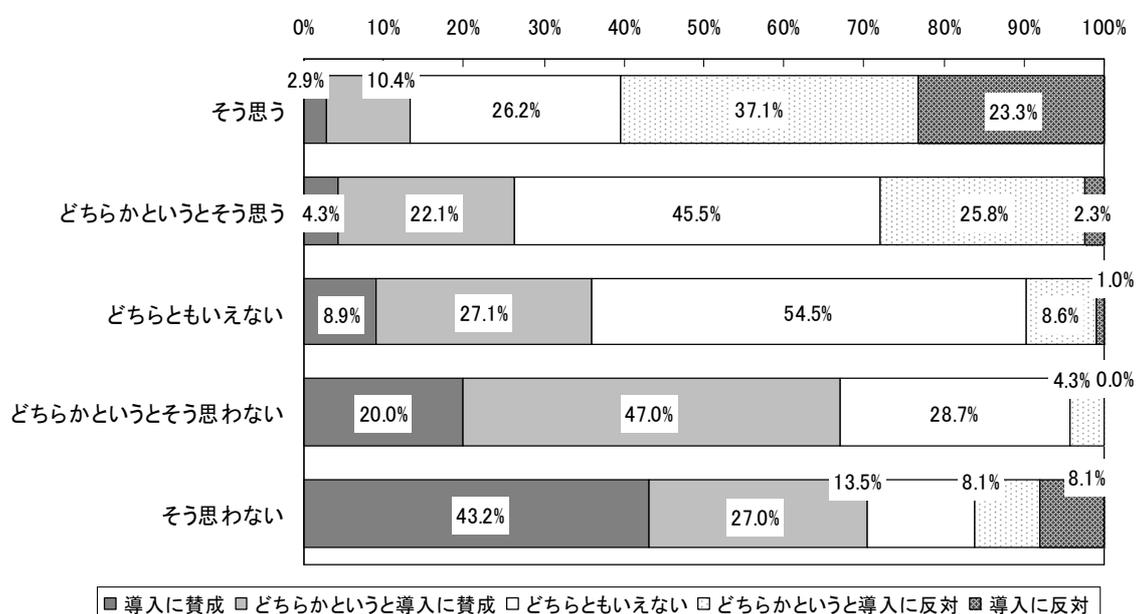


図 3-37 問9 区別ができなくなってしまう × 問7 導入意思 のクロス集計

傾向は「従業員が被曝する」と同様の傾向を示しているが、「どちらかというと思う」について見てみると、「賛成」「反対」に殆ど差がなくなっている点で傾向を異にしている。

3.2.4.5 設問5×設問7 「照射食品の技術認知」別の「導入意思」

表 3-21 問5 従来技術で困難な食品の効率的な殺菌 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという と導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという と導入に反対	導入に反対
問5 食品の効率的な殺菌 従来技術で困難な	よく知っている	22.8%	33.8%	24.3%	13.2%	5.9%
	少し知っている	9.7%	31.3%	32.8%	19.1%	7.1%
	聞いたことはある	4.7%	20.9%	41.7%	26.0%	6.8%
	知らない	3.7%	15.1%	42.2%	28.0%	11.1%

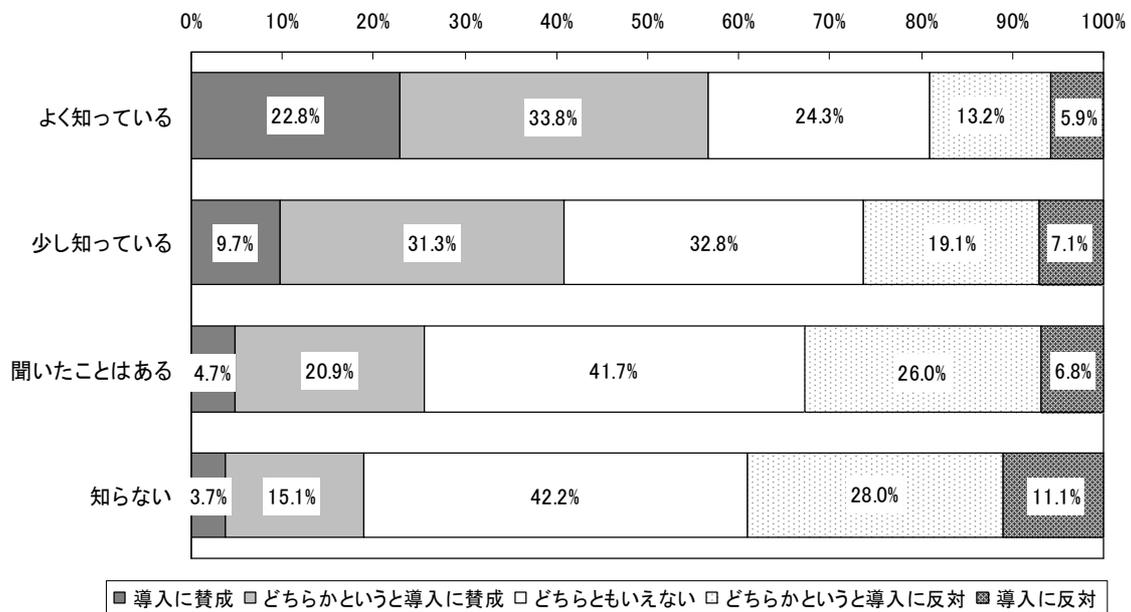


図 3-38 問5 従来技術で困難な食品の効率的な殺菌 × 問7 導入意思 のクロス集計

「従来技術で困難な食品の効率的な殺菌」の認知と導入意思とを比べると、よりよく知っている方が賛成傾向にあり、逆により知らない方が反対傾向にある。ただし、「よく知っている」以外では「どちらともいえない」が最も大きな割合を示している。

表 3-22 問5 ばれいしょ等の発芽防止 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという と導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという と導入に反対	導入に反対
問5 ばれい しょ等 の発 芽防 止	よく知っている	13.3%	26.6%	24.9%	23.1%	12.1%
	少し知っている	7.2%	22.7%	34.2%	27.1%	8.8%
	聞いたことはある	3.7%	19.4%	42.4%	26.3%	8.3%
	知らない	4.6%	18.0%	43.7%	24.7%	9.0%

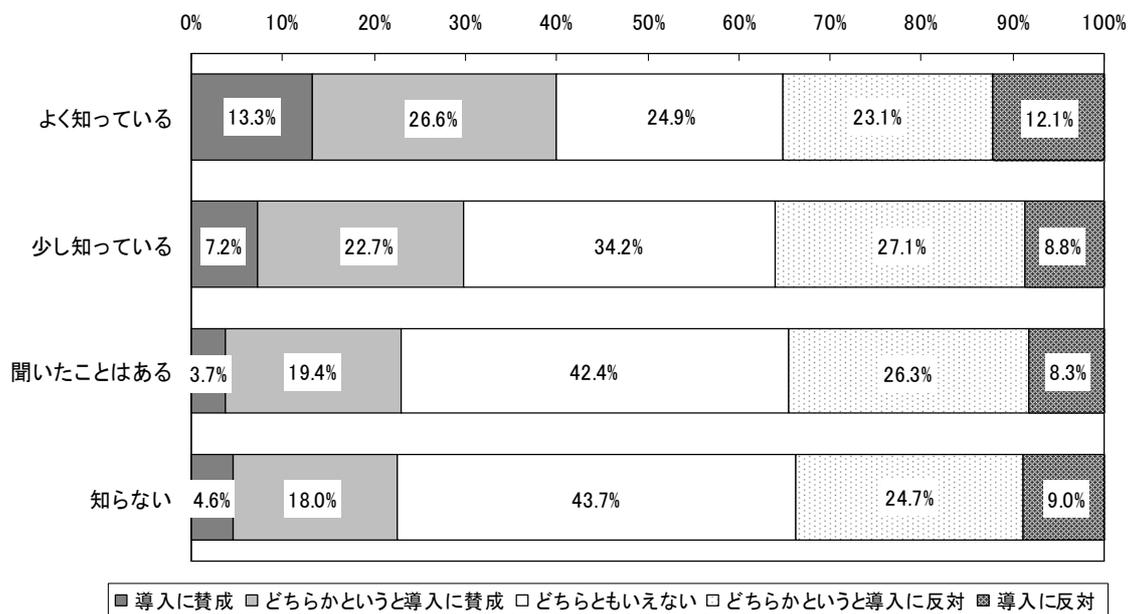


図 3-39 問5 ばれいしょ等の発芽防止 × 問7 導入意思 のクロス集計

「ばれいしょ等の発芽防止」に関しては、認知状況に関わらず導入反対の割合はほぼ一定で35%程度だった。一方導入賛成の割合は、「よく知っている」で40%、「少し知っている」で30%、「聞いたことはある」「知らない」では20%強であった。

表 3-23 問5 イチゴ等の日持ちの向上 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという と導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという と導入に反対	導入に反対
問5 イチゴ等の 日持ち の向上	よく知っている	21.8%	35.6%	21.8%	10.3%	10.3%
	少し知っている	10.4%	28.6%	29.3%	22.8%	8.9%
	聞いたことはある	6.1%	24.8%	39.9%	23.5%	5.7%
	知らない	4.6%	17.5%	41.5%	26.6%	9.9%

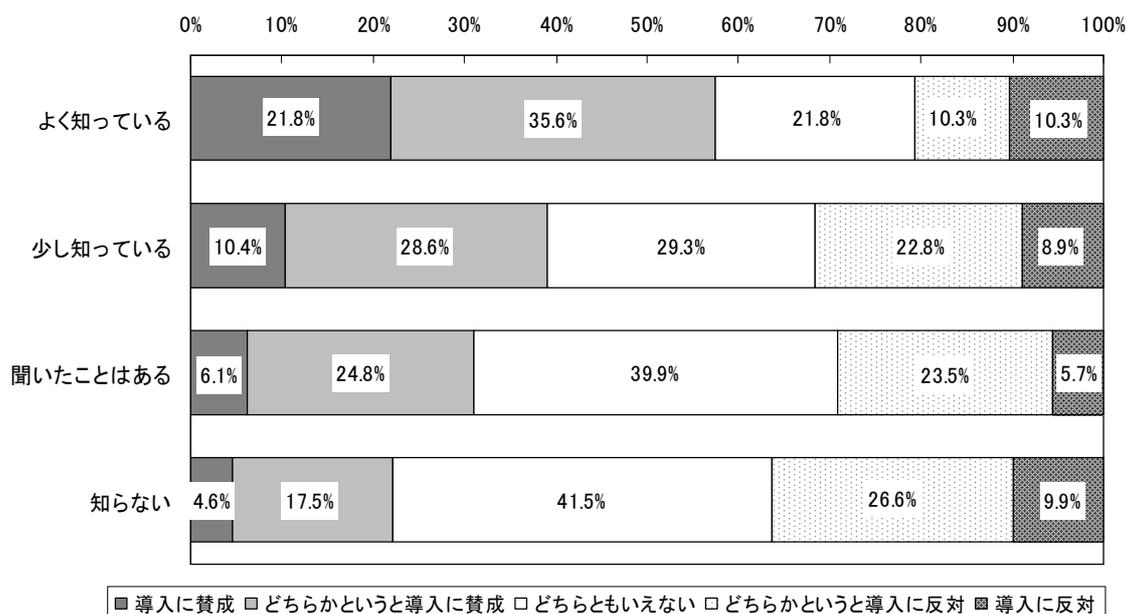


図 3-40 問5 イチゴ等の日持ちの向上 × 問7 導入意思 のクロス集計

「イチゴ等の日持ちの向上」に対してはその効果をよりよく知っているほどより導入に賛成であり、また同時に導入に対して「どちらともいえない」の割合が下がる傾向にあった。「よく知っている」については導入反対は 20%程度であるが、それ以外では概ね 30~35%で大きな変化はなかった。

表 3-24 問5 防疫上有害な昆虫の効率的な防除 × 問7 導入意思 のクロス集計

		問7 導入意思				
		導入に賛成	どちらかという と導入に賛成	どちらともいえ ない	どちらかという と導入に反対	導入に反対
問5 の効率的な防除 防疫上有害な昆虫	よく知っている	20.7%	33.3%	20.0%	18.5%	7.4%
	少し知っている	10.2%	28.7%	30.7%	22.4%	8.0%
	聞いたことはある	4.8%	21.5%	40.2%	26.6%	6.9%
	知らない	4.1%	16.6%	43.0%	26.0%	10.4%

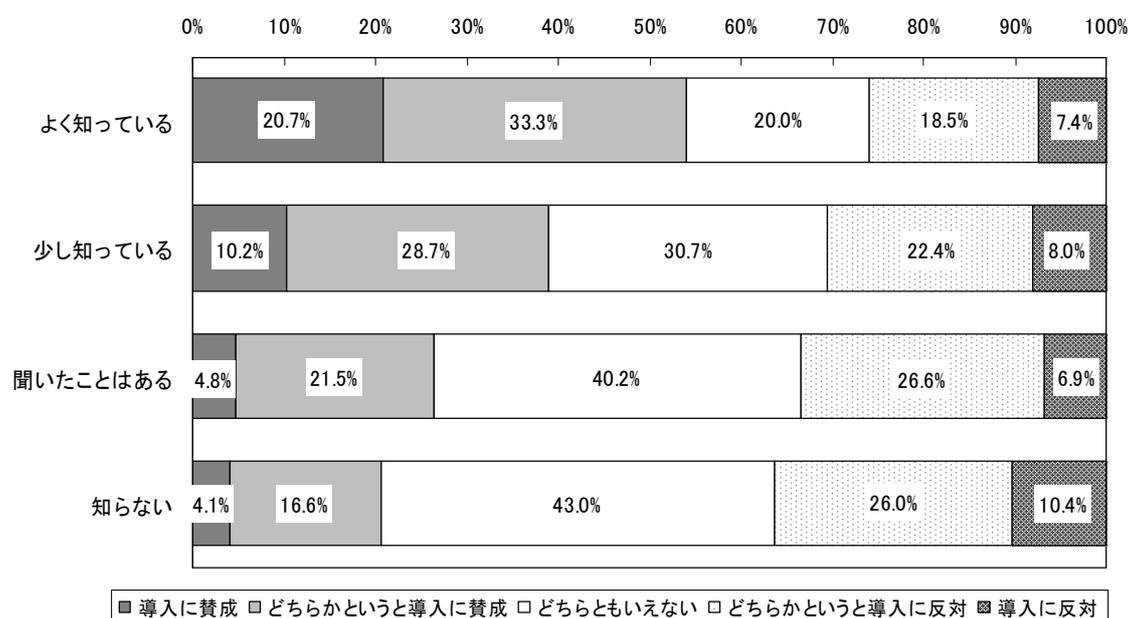


図 3-41 問5 防疫上有害な昆虫の効率的な防除 × 問7 導入意思 のクロス集計

「防疫上有害な昆虫の効率的な防除」の認知と、導入意思の間にはかなり比例的な関係が見受けられた。即ち、よりよく知っているほど賛成が多く、逆により知らないほど反対が多くなる傾向になると同時に、「どちらともいえない」との回答も多くなる傾向であった。

3.2.5 まとめ

本アンケート調査からは、概ね次のようなことがいえる。

- 食品に関する情報の多くはマスメディアから得ているものの、インターネットからの情報入手も大きなウェイトを占めている。
- 消費者の食に対する意識は比較的高いものがあるが、外食に関しては栄養や安全性を重要視しない傾向にある。
- 放射線の利用に対してはそれなりの認知がされている一方で、食品への放射線照射技術の認知度は極めて低く、殆ど認知されていない状況である。
- 照射食品の導入・購入意思については、どちらとも言えないという意見が多く、明確な立場をとる意見は必ずしも多くないものの、総体としてみると否定的な意見が肯定的な意見を上回っている。これらの導入・購入意思の間には強い相関関係があり、照射食品を購入したいと回答した回答者は導入に賛成する傾向が見られ、購入したくないと回答した回答者は導入に反対する傾向が見られる。
- 導入に賛成意見を寄せた回答者の多くは、「照射食品の有効性」「照射食品の安全確保」が導入条件と考えており、半数は「表示義務」が必要と考えている。
- 照射食品の危険を主張する意見に対しては肯定的傾向にある。
- 照射食品の安全管理に関しては、多くの事項に関して「必要である」との回答が大部分を占めた。
- 照射食品の導入・購入意思には、食生活や放射線利用の認知レベルの差による違いはあまりなかった。
- その一方で、照射食品の導入・購入意思と照射食品の有用性の意見や危険性を主張する意見に対する反応とは関係性が示され、特に危険性を主張する意見とは強く相関していた。問5と問7のクロス集計では、従来技術で困難な食品の効率的な殺菌など、食品照射の有用性についてよく知っている回答者ほど、導入に賛成する傾向が見られた。また、問9と問7のクロス集計では、「照射食品は危険」という主張に対して「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した者は導入に否定的傾向を示し、「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答した者は肯定的傾向を示した。このような二極対立的な傾向は、「照射食品は危険と思うか」という設問で最も顕著であった。
- また、自由意見からは、情報が圧倒的に不足していることから、適切な情報開示・情報提供を望む声が聞かれた。
- 要望のある情報は多岐に亘っているが、多くは安全性に関する事項である。

- また、その一方で行政や企業に対する不信感を主張する意見も寄せられ、情報開示等とともに消費者との信頼を構築することも重要であるといえる。